



株主通信 <第48期 第3四半期>

JBCCホールディングス株式会社 (証券コード: 9889)



差出人 東京都大田区蒲田五丁目37-1
ニッセイアロマスクエア15F
JBCCホールディングス株式会社
経営企画、広報IR

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

※本通信は2011年9月末時点での株主様にお送りしています。

01 OPEN トップメッセージはこちらから。

[ご注意]濡れている場合はよく乾かしてからめくってください。

トピックスをお知らせします。

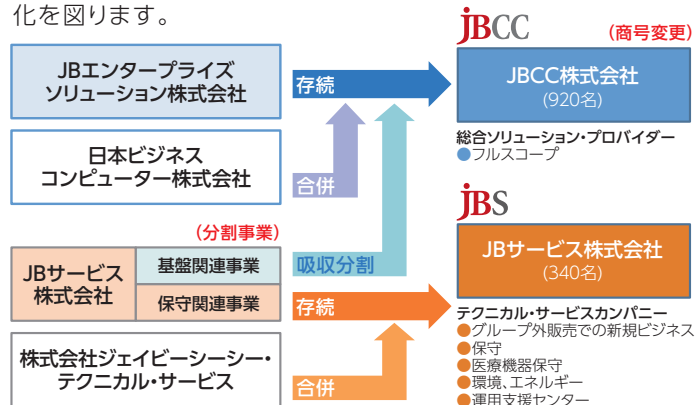
医療費の削減を提案 ジェネリック医薬品促進を支援

JBCCは、厚生労働省が推進している医療費削減をサポートする情報提供サービスを2月よりスタートします。

レセプト(診療報酬明細書)データを分析し、抽出された慢性疾患や薬価の高い医薬品を使用している患者様が、先発医薬品から後発医薬品(ジェネリック医薬品)に切り替えた場合の医療費削減額や処方例を健康保険組合様に提供するサービスです。健康保険組合様は、その情報から組合員(患者様)に自己負担削減額や処方例を郵便やメール、Webサイトなどを利用して通知することができます。ジェネリック医薬品への切り替え促進は、厚生労働省が推進する医療費抑制策の一環で、その普及率は5割を目指しており、今後ますます拍車がかかると考えられます。

組織再編に関するお知らせ

2012年4月に、中期経営計画(2011年度~2013年度)の施策の一環として、下記のように組織再編し、グループ体制の最適化を図ります。



JBグループのCSR

『JBグループ希望の森』 東京ドーム5.5個の大きさに

JBグループでは、2004年より、ビジネスでもゆかりのある中国で、『JBグループ希望の森』(ホルチン砂漠)として植林活動を進めています。現地での植林ボランティアや植林のための募金を継続的に実施しており、社員から役員までグループ全員で取り組んでいます。

2011年12月に実施した「砂漠緑化活動募金」により、『JBグループ希望の森』は、26haとなります。今後も、砂漠緑化活動を通して、地球環境の再生に積極的かつ継続的に取り組んでいきます。



当社ホームページが、日興アイ・アール(株)及び大和インバスター・リレーションズ(株)の調査で、優秀なサイトとして選出されました。

今後も、皆様のお役に立つサイトとして、より多くの情報を掲載してまいります。ぜひご活用ください。



【IRメール配信サービス(無料)のご案内

当社の業績など適時開示内容や当グループ内の最新情報をメールでお知らせします。配信をご希望の方は、下記よりご登録ください。

登録サイト

<http://www.jbcchd.co.jp/mail/>

決算などの財務情報に関するご質問は

0120-887-652 受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日除く)

e-mail: ir@web.jbcc.co.jp

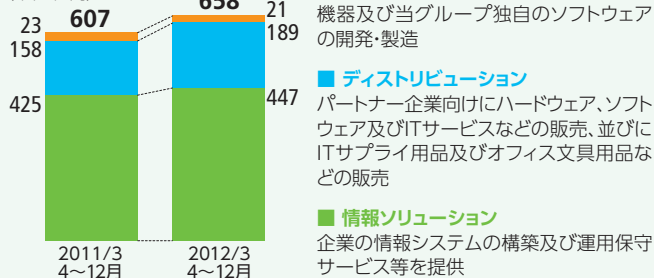
※本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれていません。実際の業績は当社の予想と大きく異なることがありますことをご承知おきください。

事業分野の概況(4-12月)をお知らせします。

サーバー、PCといったハードウェア及びソフトウェア等のシステム製品が堅調で、売上を牽引しました。

事業分野別売上高

(単位:億円)



情報ソリューション

事業継続、災害対策を意識した冗長化^(*)、仮想化^(**)のためのハードウェア、ソフトウェア等の需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比5.1%増となりました。

ディストリビューション

サーバーやストレージ^(***)需要が堅調であったことに加え、金融、公共向けの大型案件受注等により、ソフトウェア販売が大幅に伸長しました。その結果、売上高は前年同期比19.3%増となりました。

製品開発製造

新機種プリンターの販売が本格化するともに、ソフトウェアも仮想化支援ソリューション等が好調ではありましたが、OEM^(****)の減少傾向をカバーするにはならず、売上高は前年同期比8.6%減となりました。

(*)冗長化:システムの一部に何らかの障害が発生した場合に備えて、障害発生後もシステム全体の機能を維持し続けられるように予備装置を平常時からバックアップとして配置し運用しておくこと。

(**)仮想化:物理的には1台のサーバーを論理的に分割し、あたかも複数台のサーバー(仮想サーバー)が動作しているかのようにすること。

(***)ストレージ:外部記憶装置

(****)OEM:Original Equipment Manufacturerの略。発注元企業のブランドで販売される製品を製造すること。

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2011年度第3四半期が終了しましたので、第3四半期連結決算概況および直近のトピックスをご報告いたします。

当第3四半期は、東日本大震災後の緩やかな回復基調がみられたものの、円高やタイの水害等もあり、足踏みの状態が続いています。当グループにおいては、ハードウェアの買い替え需要等が、システム開発やサービスビジネスの抑制をカバーしたものの、まだ本格的な回復にはいたりませんでした。

そのような環境下、事業継続、災害対策、クラウド対応等の切り口で、既存のお客様のみならず、新規のお客様への提案を推進し、**当第3四半期(10~12月)は、**

[売上高] 215億76百万円 (前年同四半期比1.5%増)

[経常利益] 4億88百万円 (前年同四半期比6.3%増)

[四半期純損失]* 2億1百万円
(前年同四半期は1億96百万円の四半期純利益)

となりました。

繰延税金資産の取り崩しおよび業績予想の修正について(1月12日発表)

平成23年12月2日公布の法人税率引下げに関連する法律(「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」)に伴い、繰延税金資産の取り崩しが発生すること、および首都圏における事業所統廃合の実施に伴い特別損失を計上したことにより、当期純利益の通期予想を6億5千万円から1億2千万円に修正いたしました。

なお、売上高880億円、経常利益16億円は当初予想から修正はありません。また、配当予想についても修正はありません。

*当第3四半期の純利益では、税率変更の影響として法人税2億94百万円を計上しました。

株主還元について

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つとしており、将来の投資や事業展開を考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。また、配当性向にも配慮しつつ利益水準を向上させていく中で、純資産配当率(DOE)5%を中期的な目標としています。



2012年2月
代表取締役社長

山田 隆司

POSTCARD



02 OPEN

トピックスはこちらから。